

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成25年9月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成25年8月分(平成25年8月5日～平成25年9月1日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	3	0.01	0.17		10	百日咳	5	0.02	0.06	
2	RSウイルス感染症	212	0.74	0.25	↑	11	ヘルパンギーナ	199	0.70	1.21	↘
3	咽頭結膜熱	322	1.13	0.70	→	12	流行性耳下腺炎	41	0.14	0.65	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	285	1.00	0.58	↘	13	急性出血性結膜炎	4	0.05	0.01	
5	感染性胃腸炎	1,001	3.51	2.93	↘	14	流行性角結膜炎	67	0.88	1.14	→
6	水痘	101	0.35	0.58	↘	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
7	手足口病	933	3.27	1.36	↓	16	無菌性髄膜炎	26	0.31	0.04	↗
8	伝染性紅斑	2	0.01	0.17		17	マイコプラズマ肺炎	9	0.11	0.27	
9	突発性発しん	135	0.47	0.64	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成25年8月分(8月1日～8月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	55	2.39	2.33	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	105	5.00	6.12	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	11	0.48	0.74	↘	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	0.19	0.99	
21	尖圭コンジローマ	19	0.83	0.72	→	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	15	0.65	1.16	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.19	0.14	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

●急増疾患 RSウイルス感染症(112件 → 212件)

●急減疾患 手足口病(3,568件 → 933件)  
性器ヘルペスウイルス感染症(21件 → 11件)

### 発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	59	結核(59)〔西部保健所(11), 西部東保健所(1), 東部保健所(8), 北部保健所(5), 広島市保健所(18), 呉市保健所(10), 福山市保健所(6)〕
三類	15	細菌性赤痢(1)〔広島市保健所〕, 腸チフス(1)〔東部保健所〕, 腸管出血性大腸菌感染症(13); O157(5)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(4)〕, O26(8)〔広島市保健所(2), 福山市保健所(6)〕
四類	8	E型肝炎(1)〔東部保健所〕, デング熱(1)〔広島市保健所〕, レジオネラ症(5)〔西部保健所(1), 東部保健所(2), 広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 日本紅斑熱(1)〔呉市保健所〕
五類全数	11	風しん(3)〔広島市保健所〕, アメーバー赤痢(1)〔西部保健所〕, ウイルス性肝炎(B型)(1)〔広島市保健所〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所〕, 梅毒(2)〔広島市〕, ジアルジア症(1)〔東部保健所〕

## 3 一般情報

### (1) 季節性インフルエンザの予防接種について

これからインフルエンザの流行シーズンを迎えるに当たり、重症化防止及び予防には、インフルエンザの予防接種が、手洗い・うがいの励行とともに最も有効な予防方法です。

#### ●接種するワクチン

A(H1N1)pdm09, A(H3N2)及びB型の株が混合された3価ワクチン

#### ●留意事項等

- ・お近くの医療機関で予防接種を受けることができますが、事前に電話などで確認をして予防接種を受けてください。
- ・65歳以上の高齢者や60歳から65歳未満で心臓、腎臓又は呼吸器に重い病気がある方は補助が受けられますので、お住まいの市町にお問い合わせください。
- ・ワクチン接種は多くの方々に重症化予防というメリットをもたらしますが、接種後、腫れや発熱などの症状が見られたり、まれに重篤な症状を引き起こす可能性もあり、リスクを100%排除することはできません。この点を御理解いただいたうえで、個人の選択により接種を受けるようお願いします。
- ・ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間程度を要することから、流行が始まる前に早めの接種をお勧めします。

※ なお、予防接種に関するお問い合わせについては、次のホームページをご覧ください。

○ 「県内市区町の予防接種担当課一覧」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/90600.pdf>

### (2) RSウイルス感染症について(続報！！)

乳幼児を中心に例年冬季(11月から3月)に流行するRSウイルス感染症の報告が7月中旬から全国で増えています(5週程度前倒しの状況)。広島県においても、例年同時期に比べ多い状態が続いています。

RSウイルス感染症は、年齢を問わず繰り返し感染しますが、かぜに似た症状で多くの場合軽症で治ります。

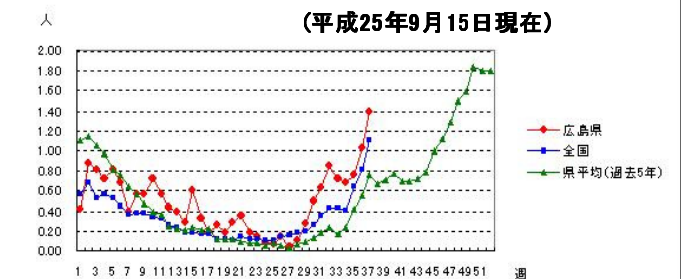
しかし、感染力が強く、1歳未満の乳幼児の場合や先天性疾患、慢性肺疾患など基礎疾患を持つ小児の場合は、重症化の恐れがあります。かぜの症状が現れたら、症状では他の感染症と区別が付きにくいので、早めに医療機関を受診することをお勧めします！！

※なお、詳しい情報は、こちらのホームページをご覧ください。

○ 厚生労働省ホームページ「RSウイルスに関するQ&A」

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs\\_ga.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_ga.html)

#### RSウイルス感染症患者発生状況(H25年シーズン)



### (3) 腸管出血性大腸菌感染症について

O157をはじめとする腸管出血性大腸菌感染症が、全国で発生しています。県内でも6月13件、7月10件に引き続き、8月13件発生していますので、注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症は、症状がないものから、腹痛や下痢を伴うもの、血便を伴うもの、さらに、重症化して溶血性尿毒症症候群(HUS)を発症する場合など、症状は様々ですが、子どもや高齢者は重症化しやすいので、特に注意が必要です。

食中毒予防(付けない・増やさない・やっつける)の基本を守り、生肉又は加熱不十分な食肉等を食べない、食事や排便後の手洗いを徹底するなど、家庭内での感染予防にも心がけましょう！！